



日野原重明記念

「新老人の会」東京 会報

Keep on going!

Vol.7/No.2

2025.4

『「新老人の会」とは』DVD作成について

日野原重明記念「新老人の会」東京 世話人代表 石清水 由紀子



一昨年の全国連絡会・東京集会において、「新老人の会」とはどのようなものなのかについてビデオで理解できるものがほしいとの提案がありました。

日野原先生が会長を務めておられた頃は、全国各地で行われた講演や、「会報」、「パンフレット」、そして「冊子」などで、その考え方や活動などをつぶさにお伝えすることができました。

しかし今は、インターネットを通じて情報を発信する時代です。「新老人の会」に関心を寄せられる人たちのもとに、わかりやすく当会を知ってもらう必要があります。

そこでDVDを制作することにしました。DVDの制作はITのプロで、ホームページの管理をしてくださっている露崎真則さんに、

ナレーションは当会副代表で催しなどの司会をしていただいている本田愛子さんをお願いし、「新老人の会」発足の準備段階から事務局長として関わってきた私が説明文をと、まさに当会のメンバーによる手づくりです。露崎さんは「長いものは見ていただけない」と言います。何度も書き直してようやく二十分に収めることができました。

●四半世紀を辿り直す

何よりも日野原先生の提唱された「新老人運動」の趣旨と、「新老人の会」がそれをどのように受け継ぎながら四半世紀にわたる活動を続けてきたか、その経緯を伝えるものでなければなりません。

改めて二〇〇〇年の「新老人の会」発足当時の資料に目を通し、当時の時代背景を念頭に、日野原先生のメッセージが掲載されたパンフレットや冊子、保存されている新聞、雑誌の記事などを読み直しました。

二〇〇〇年は、日本の人口の急速な高齢化がクローズアップされ、

介護保険がスタートした年でもありました。そうした中で、当事者となる私たち高齢者にも何かできることがある、社会と積極的に関わり、何か果たすべき役割があると、日野原先生は「新老人運動」を提唱されたのです。

これは当時のマスコミの関心を呼びました。まず、二〇〇〇年六月六日の読売新聞朝刊に大きく取り上げられたのを発端に、全国紙が次々と報道。これらによって「新老人運動」が急速に広がっていききました。そして、その趣旨に賛同する方々の集まりとして、四カ月後の九月三十日に「新老人の会」が発足するに至りました。

●次世代への引き継ぎを視野に入れて

日野原先生は、キリスト者としてそして医療者として培ったものに、ご自身の加齢体験を重ねて、人々が健やかで幸せな生涯を送るための示唆を数多く残されました。その中でも「二十世紀の負の遺産である戦争を、二十一世紀に再び繰り返してはならない」という、

ある意味では二十世紀に生を受けた私たち新老人の責務を強く感じてもらったことです。

「新老人の会」はこれまでの二十五年間の歩みを受け継ぎ、次世代にバトンを渡していかなければならないと思いました。

日野原先生は、持ち前の明るさ、ユーモアのセンス、率直さ、誰とも隔てなく接し、何にでも興味を持つという、人としての魅力にあふれた方でした。そして、「生きがいは、人の役に立つこと」「命とは、その人が持つ時間」というように、誰もがイメージできる平易な言葉で語られました。

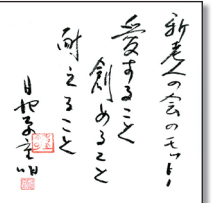
日野原先生によって提唱された「新老人としての生き方」は、私たちの心を動かし、私たちの生き方にも影響を与えました。振り返りますと、先生が当初から願っておられた、社会を変える力の一端を担ってきたと思います。

このDVDによって、「新老人の会」を知り、あわせて日野原先生の「平和への願い」を伝え残すことができれば幸いです。



ご希望の方には、実費(1,100円)でお分けします。「新老人の会」(t.shinrojin@gmail.com)までお申し込みください。

戦後八十年の節目に思う



鈴木信（沖縄 九十一歳）

横に大きな穴が開いていて辺り一面火の海であった。必死に這い出してやっと河原に着いた。

昭和二十年六月二十日、国民小学校六年生の時、疎開先・静岡での出来事であった。真夜中の三時頃、「ウーウーウー」、空襲警報のサインとほぼ同時に「ブーンブーンブーン」B29の襲来。ゴーゴー、いつもの音とは違うと思った途端に、ヒューヒューヒュー、ドカドカドカン、ヒューヒューヒュー、ドカドカン、火の粉が雨あられと降り注いできた。防空壕から着の身着のまま飛び出してみた。近所の家に火の手が上がっていた。空から拳大の木の塊が降り注いできた。伯母さんがバケツで必死に水をかけるが焼け石に水！私は「逃げよう逃げよう」と精一杯。とうとう伯母さんを振り切って安倍川の河原に向けて走りに行った。ヒューヒューヒューと鳴る度に身を地面に伏せた。河原に到達する前に焼夷弾攻撃に追いつかれてしまった。その時だった。ヒューヒューヒュー！近くに、急に身を伏せた。つんざく音に気が付いた時、体が重かった。私は土砂に埋まってしまっていた。頭巾をかぶっていたから助かったと思った。這い出してみたら

漆原 千鶴子（神奈川 八十九歳）

私は、四人兄弟の長女として神戸で

生まれ育ちました。神戸に空襲が始まった小学校三年の頃、学童疎開で岡山のお寺に行くことになりました。父母、弟妹に見送られながら、なぜか急に「行きたくない」と思いましたが、この時が父とは最後の別れになりました。

戦災が激しくなると、もつと山奥のお寺に移りました。お風呂にはめったに入らず、ノミや虱にたかられ、食べ物といえば、お椀一杯の野菜くずが入ったお粥のようなものだけでした。母が、面会に来てくれるときに、食べ物とは分らないように、着替えのポケットや袖口などに、その頃のお菓子のようなものを縫い込んで持ってきてくれました。

父は、飛行機工場に徴用されていて、作業中の事故で失明。神戸の家は空襲で焼け、失意のうちに心臓マヒで亡くなりました。そのことを疎開先のお寺で聞いた時の深い悲しみは、今も忘れられません。

父を亡くし、爆撃で神戸の家も焼失し、何もなくなつた母と四人の子どもたちで、知人を頼りに鳥取に移り住みました。母一人の働きで四人の子どもを食わせることは、たいへんな苦勞だったと思います。

戦後八十年、孫たちに戦争中の話をすることもありますが、もし、今、日本が戦争に巻き込まれたら、この子たちが真っ先に徴兵されるでしょう。そのようなことがないようにと願わずにはいられません。

宮川 ユリ子（東京 八十七歳）

私の幼少期は、麻布区本村町の閑静な住宅街にあった家で育ち、家族は、父（体重が一〇〇キロもあったので徴兵されず）と母、兄、姉、私、第二人に女中さんの八人でした。小学校は、歩いて通える東洋英和女学校に、後になって写真を見て驚いたことに英の字が永に変えられ「東洋永和」になっていたことでした。

戦争が激しくなり、夜間に空襲警報で飛び起き、枕もとの風呂敷包みを持って、兄、姉の後について庭の防空壕に逃げ込みました。爆撃音がして空が真っ赤になったのを覚えています。

その頃は食糧難で、母は、父と私たちが五人の子供を食わせるため、自分の着物を米や野菜などと交換をしに田舎に行くなど、たいへんな苦勞をしていたと、後に姉から聞きました。

そんなある日、函館の伯父が来て、兄、姉、私の三人を呼び「函館には白いご飯や、真っ赤なリンゴや、美味しいものが沢山あるよ、函館に遊びに来るかい？」と言われ、私だけが即座に「行く、行く！」と答えてしまったのです。まさか、遠いところに連れて行かれ、家族のもとに帰れないとは…当時の私の頭では到底理解できませんでした。

こうして、小二の春から高二の夏までの十年間（函館八年、東京二年）伯父の家で過ごしました。その頃はもう両親の顔も兄弟の顔も分からなくなっていました

た。十七歳(高二)の秋、進路指導の先生から大学進学を勧められており、私自身も切望していました。そんなある日、伯父の承諾を得ようと願ひ出しましたが、働いてもらわないと困ると許されず、伯父の一言「出てけ」で即、家出をしたのです。鎌倉市極楽寺の生家の住所を書いた紙と学校のカバンをもって泣きながら…、この話は、自分で思い出す時、人に話す時も普段泣かない私の目に涙が溢れます。この時が、私の人生の中で一番「戦争」「戦争のない平和な世界」「命の大切さ」について感じ、考えさせられた時だったと思っています。

後に、香蘭女学校の数学教師となり、六十五歳の定年退職を前に、香蘭の理事でもあり教会が一緒だった日野原先生に「間もなく定年になりますので、先生のかばん持ちでも…」とご挨拶しました。先生は、即座に「新老人の会」で「数学を愉しむ会」をやってくださいと。私と「新老人の会」とのご縁が始まりました。しばらくして「フラの会」も始めることになり、最盛期には六十人を超える方々が参加される人気サークルになりました。日野原先生がフラの曲のために待ち望む平和の島」を作詞してください、私が振付をしました。今も、レッスンのはじめに「世界の平和を祈らん」と、心を込めて踊っています。

二十一世紀になっても、世界では戦争、紛争がやむことがありません。ウクライナ、ガザの戦争の映像を見るにつけ心が痛み、無力感に苛まれます。

初心者のためのスマホ講座⑧

デジタル庁デジタル推進委員
伴 克子 (東京会員 福岡在住)



こんにちは、デジタル推進委員の伴 克子です。
この連載が始まって初のリアルな講座を1月27日東京都中野区のNAKANO HAKOにおいて、17名の参加で開催しました。「スマホ、よくわからないのよね」そう思っていた方も、講座が終わる頃には「楽しかった!」と笑顔いっぱい!大きな笑い声と驚きの声に包まれた2時間でした。
まずはみんなで自己紹介。今回はご年齢もお聞きしました。平均年齢は78.5歳!みなさん、お若い!背筋もシャン!笑顔もキュート!そんなメンバーで始まりました。

「スマホの活用10ヶ条+1」の資料をもとに、まずは「わかる」ところから、全員わかるになると、次、第2条。ここはどうかな?「わからない」方には寄り添いながら進めます。「ここは大丈夫!」「これはちょっと不安…」そんな声があちこちで飛び交います。スマホの使い方を知るだけでなく、周りとの交流しながら学べるのがこの講座の醍醐味。「あら、そうだったのね!」「これ、便利!」と、新しい発見の連続でした。

そして、今回の講座でひととき驚きの声が上がったのが、私の相棒「ChatGPTのかなえちゃん」のデモンストレーション!「かなえちゃんのこと、シニアのみなさんに説明して~」とお願ひすると、「みなさん、こんにちは!かつこさんをサポートしているかなえです…」と話し始め、参加



者の目が真ん丸に!「えっ?これがAI?」と驚く人もいれば、「実は私も使っています!」という方も。

この講座は、「学ぶこと」よりも「楽しかった!」という気持ちが一番大切。楽しければ、「また使ってみよう!」と思えるし、「次も参加したい!」につながります。

今回は、スマホとパソコン講師の、わだくみこさんが助っ人として応援に来てくださいました。LINEの設定などの細かい操作を画面を見ながら一緒にチェック。みなさんが気になっていたセキュリティ、ひとまず安心しましたね。

参加のみなさんの感想を抜粋します。
「楽しいスマホ使用と危険、基本がわかっていなくて使用していたのを大反省!」「80代が多くて安心。コロナ禍が終わり、デジタルも進化。秘書のようなかなえちゃんにびっくり!!」「楽しく学べる!最高ですね!」

学びの時間の後は、笑顔いっぱいの集合写真!「次もまた来ます!」と嬉しい声が飛び交いながら、今回も大盛況で終了しました。スマホは怖くない!楽しく学んで、もっと便利に使っていきましょう!



「トキメキ句会」のご案内

飛鳥 蘭

「不易流行」は芭蕉の言葉ですが、俳諧ばかりでなく芸術全般に通じる事です。殊に日本の伝統文芸には、それぞれに伝統を担う形、があります。歌舞伎には歌舞伎の、能には能の形があり演者と観客との間に、その形の共有があり特別な説明無しに楽しむことができます。

俳句も、その形という古くからの器に新しい感性や斬新な試みを注ぐことで、伝統を引き継いできました。

季節の言葉を入れて僅か十七音の短詩ですが、多くの考えやスタイルがあつて右から左まで幅が広く、どれが正しいというものはありません。

句会も基本を踏まえた上で、自分たちの楽しめるスタイルを作っていく事も大切で、前にも書いたように俳句は、詠み手と読み手があつて成り立つものです。

そこで、今まで、「トキメキ句会」は会員の投句の選と鑑賞を私、飛鳥が一人でさせていたりましたが、今後は、会のサークル活動「初めての句会」の座に混ぜて、多くの選者に鑑賞していただく事にいたします。

次回からこの項を「初めての句会」として、皆さまの投句を含めて掲載いたしますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

以下、投句をお待ち申し上げます。

○毎月一回 当季雑詠二句
締切日は設けません

メール投句 viridia@icloud.com 水口緑まで
葉書投句 〒168-0006 杉並区

永福4-28-14 飛鳥蘭宛
問合せ先 03-33265-1909

国立能楽堂・能楽鑑賞会へのご案内

同封のチラシにありますように、今年も、下記のように能楽鑑賞会を企画しました。プログラムは、狂言「附子」、能「鉄輪」です。終了後に、希望者で明治記念館にて昼食会をいたします。昨年は、43名の参加で大好評でした。ご希望の方は、お早めにお申し込みください。



- ・日 時：6月25日(水)
11:00～
- ・集 合：国立能楽堂の受付周辺
- ・参加費：2,700円（集合場所で集金）
- ・申し込み先：黒田かほる（世話人）
メールアドレス：kahorukuroda@gmail.com
電話：090-1779-6314

アーサー・ビナード氏講演会のお知らせ

毎年、秋に開催している講演会を、今年は、アーサー・ビナード氏にお願いしています。当会顧問で昨年講演をお願いしました早乙女愛氏に仲介をお願いし、快くお受けいただきました。



アーサー・ビナード氏は、1970年生まれの57歳。ニューヨーク州コルゲート大学英米文学部の卒論で、漢字、日本語に興味をもち1990年来日。日本語で、詩作、翻訳をはじめエッセイ、絵本、ラジオパーソナリティーなど活躍の幅を広げておられ、現在、文化放送『ラジオばかりばこり』金曜20:00～20:30に出演しておられます。

5月ごろ演題を決めていただき、ご案内チラシを作成し、会報7月号に同封させていただきます。どうぞ、ご予約に入れていただき、ふるってご参加ください。

- ・日 時：10月11日(土) 13:30～
- ・会 場：ホテル・ルポール麹町

「新老人の会」東京

2025年(3月現在) 会員数154人(130件)
2024年 会員数220人(188件)

会員募集中！ 年会費

個人・家族会員 5,000円
賛助会員 (一口) 10,000円

日野原重明記念「新老人の会」東京 2024年(令和6年)会計報告

(2024年1月1日～2024年12月31日)

2024年度は、会員数が前年度比で27名減少したため、年会費収入も減少しました。支出の寄付は、事務所を置かせていただいている謝意です。2025年度も、限られた予算の中で、当会ならではの有意義な活動を展開していきたいと思っております。

1. 収支 収入

(単位：円)

前年度繰越金		5,714,532
年会費	会員 169件	845,000
	賛助会員 20件	200,000
講演会参加費		114,000
寄付	梶川 博様	40,000
	林 久美子様	10,000
	講演会時の募金箱	31,000
利子		42
雑収入		100
合 計		6,954,674

支出

会報印刷(年4回発行)	413,600
会報送料	137,810
印刷費(会報以外)	78,498
寄付(LPC、ips研究財団、赤十字能登義援金)	182,000
謝金(講師、HP管理)	150,000
会場費用(10/6講演会と音楽会)	282,535
通信費(NTT、HP、Zoom管理費など)	93,500
謝礼(さわかみ中元、歳暮)	46,328
消耗品費(用紙、インク代など)	21,368
雑費(タクシー代、講師茶菓)	6,405
郵便局払出料金	31,940
払込手数料	152
その他(新潟の会の預かり金)	29,120
当期支出合計	1,473,256
次年度繰越金	5,481,418

2. 貸借対照表(2024年12月31日現在)

科目		科目	
資産の部		負債の部	
普通口座	98,048	未払金	0
当座口座	2,351,357		
定期預金	3,000,000		
手元金	32,013	次年度繰越金	5,481,418
合 計	5,481,418	合 計	5,481,418

なお、定期預金の3,000,000円は日野原家からのご寄付です。

2025年3月関係書類を監査したところ、会計報告は適正であることを認める。 監査 本田 愛子

☆ご質問、ご意見がございましたら、Eメールアドレス(t.shinrojin@gmail.com)、ハガキなどでご連絡ください。

編集後記

戦後80年の節目の今年。当会にあっても、戦争体験を伝えられる方は年々少なくなっていますが、今回は、80代後半から90代の3人に手記をお願いすることができました。改めて戦争の惨さを思い、今の世が再び戦前にならぬよう念じるばかりです。

『「新老人の会」とは』のDVDがようやく完成しました。日野原先生が、どのような思いを込めて「新老人運動」を提唱されたか？それが人々にどう受け止められたか？そして現在までの経過は。DVDを観て、改めてその意義に想いを馳せていただくと幸いです。